

統計

昭和二年結核死亡統計

內務省衛生局

統

計

宮熊佐大福高愛香德和山廣岡島鳥富石福秋山青岩福宮長岐滋山靜

歌

崎本賀分岡知媛川島山口島山根取山川井田形森手島城野阜賀梨岡

三〇七六 八〇〇
一、四三八 二、五五二
三、四五八 二、五一九
一、四四九 二、二四九
二、一二三 一、四二〇
一、二六六 一、六一三
一、一四二 一、四二〇
一、一四八 一、五二〇
一、一八六 一、五三三
三、一五三 一、四三一
三、三三一 一、四八八
二、一五三 一、四八八
二、一八五 一、五八一
三、一五五 一、五八一
三、一八六 一、五三三
二、一七四 一、五三三
二、一七七 一、五三三
三、一八六 一、五三三
一、一七四 一、五三三
一、一八六 一、五三三
一、一七四 一、五三三
一、一八六 一、五三三

二、二九四 四九三
一、六七二 九八三
一、五七九 一、六七四
一、五七九 一、六七四
一、六七四 一、六七四
一、五九四 一、六七四
一、五九四 一、六七四
一、六九五 一、六七四

一七八七 一三一六
一三一六 一七八七
二一、二二 二一、二二
二一、二二 二一、二二

一、四三三 三三一
一、四三三 三三一

一、七二一 八〇〇
六〇七 九〇〇
六六七 二〇〇
一、一五八 六〇〇
一、六五七 一〇〇
一、〇七八 五〇〇
一、四六八 九〇〇
九二四 二〇〇
八三六 六〇〇
一、〇五一 七〇〇
一、〇七八 五〇〇
九五三 三〇〇
七五九 七〇〇
七五二 三〇〇
四七九 六〇〇
七二五 六〇〇
一、二四七 一〇〇
一、六四九 四〇〇
一、一一六 九〇〇
八〇三 〇〇〇
六九八 〇〇〇
一、一一七 一〇〇
二、三四九 一〇〇
六九四 四〇〇
九三八 一〇〇
六八九 四〇〇
一、三三二 四〇〇
七〇七 八〇〇

一〇七四

市名	二、昭和二年人口十萬以上ノ市ニ於ケル結核性疾患死亡		
	全結核性疾患死亡數	肺結核死亡數	人口萬ニ對スル全結核性疾患死亡數
神戶	一、九六七	一、四六〇	一、四九五、九〇〇
大阪	一、九六八	一、四六一	一、八九〇
京都	一、九三五	一、四四三	一、四九五、九〇〇
横濱	一、九三五	一、四四三	一、四九五、九〇〇
名古屋	一、九三五	一、四六〇	一、四九五、九〇〇
金沢	一、八四五	一、四六〇	一、四九五、九〇〇
澤瀉	一、八四五	一、四六〇	一、四九五、九〇〇
鴻臚館	一、八四五	一、四六〇	一、四九五、九〇〇
東京	一、八四五	一、四六〇	一、四九五、九〇〇
小樽	一、八四六	一、四六〇	一、四九五、九〇〇
仙臺	一、三七三	一、三七三	一、四九五、九〇〇
函館	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
札幌	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
鹿兒島	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
沖繩	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
大正	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
大正	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
大正	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
大正	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
大正	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
大正	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
昭和	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
計	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
繩島	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
島根	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
三重	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
和歌	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
奈良	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
兵庫	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
福岡	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
大分	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
宮崎	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
鹿児	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
沖縄	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
鹿兒島	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
島根	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
山陰	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
山陽	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
近畿	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
東北	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
北海道	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇
日本合計	一、三八六	一、三八六	一、四九五、九〇〇

統計

岡廣鹿長熊福吳本崎幡島市

計市市市市市市市

三一三
四九五
三三六
四四四
五七四
四一四
四七三
三〇七
三四六
二四六
一七九
二九四
二八七
三三八
二八九
三八九
二六一
二三七
二三一
二三一
二七、八四
二七、七三
二九、五四
三〇、七三
二九、五四
二七、八四
二一、三一
二二、五〇
二二、九六
三〇、六一
二二、九六
二六、一一
二三、五〇
二一、一九
二一、三一
二二、五〇
二五、一八
一九、五二
一九、〇五
一七、八七
一五、五三
一四、二二
一五九、五〇
一三四、七〇〇
一九四、三〇〇
一五四、五〇〇
一四五、五〇〇
一三三、七〇〇
一三三、七〇〇
一三〇、四〇〇
二一〇、五〇〇
一四二、四〇〇
二三三、六〇〇
一六、二二二
二三三、五二二
二三三、五二二
二三三、五二二

三、昭和二年職業別肺結核死亡

職業	肺結核死亡數			總死亡數	總死亡百中肺結核死亡
	男		女		
	計	男	女		
農林漁機械	九〇九〇	九〇九〇	三二一	一九〇	一三〇、四〇〇
採石礦業	三二一	三二一	一五〇	一〇〇	二一〇、五〇〇
耕畜產	一九〇	一九〇	一〇〇	一〇〇	一四二、四〇〇
織機化學器皿	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二三三、五二二
工具	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二三三、五二二
工製工	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二三三、五二二
取金鹽造	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二三三、五二二
被眼身ノ廻品製造業	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二三三、五二二
皮革骨角甲羽毛品嗜好品製造業	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二三三、五二二
木竹類ニ關スル製造業	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二三三、五二二
飲食料品嗜好品製造業	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二三三、五二二

四、昭和二年年齢體性別結核死亡
(イ) 全結核性疾患死亡數

		年齢		性別		計		人當該年齡級口級		當該年齡級人口一萬 ニ對スル結核死亡	
		男	女								
備考	年齢級人口ハ大正十四年國勢調査ノ結果ニ據ル。	○一	○一	二、八九六	二、五七三	五、四六九	一、三六七	八、二六四、五八三	六、六二	七、一二	六、六二
合年齡	九〇八〇七〇六〇五〇四五〇三〇三〇二〇一〇五	七五〇	七五〇	一、三三四	二、一八六	一、四三六	四〇四	一、五五〇、一七七	一、五九七、四二七	一、六五一、七五七	一、九三〇、七二四
不詳	八九九九六九五九五四四四三九二四二一四一四	一〇二	一〇二	四、八二九	三、五八二	二、九〇八	七〇四	五、八八五、二七七	六、九二四、四三二	六、七三五、〇三〇	五、八八五、四九八
計	五八、三一六	一	一	二、九〇八	三、四三一	二、九〇八	七〇二	五、〇六〇、五二七	四、三九三、四七一	三、七一六、〇八七	一、九九〇、八一七
備考	六一、一二三	一	一	一、九〇九	一、一九九	一、一九九	一	一、五八五、二七七	四、一五六	三、二二一、七六五	一、九九〇、八一七
年齡級	一九、四三九	一	一	一、四三二	一、一九四	一、一九四	一	五、八〇五	四、九八一	三、四四九、三七七	一、九九〇、八一七
人口	五九、七三六、八二二	一	一	一、四五七	二七〇、〇七二	二七〇、〇七二	一	六、八〇五	二、四五〇、九〇三	二、四五〇、九〇三	一、九九〇、八一七
備考	一九、九九	一	一	一、四五七	一、四四二、一九四	一、四四二、一九四	一	六、〇四	一、八六二、六八一	一、八六二、六八一	一、九九〇、八一七

(口) 肺結核

統計	年齢 不詳	合年齢										年 齡
		〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	
計詳	八九九九四四四四三三四二二一	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇四三二一〇四
四四、一九七	一三〇五五五七〇五九四	一	〇三	一	二	三	四	五	六	七	八	一、〇八五三三三
四一、三〇五	二九七四四六三〇三三〇三	一	〇一	一	二	三	四	五	六	七	八	一、〇九三三三
八五、五〇二	一四八六〇八六〇二二〇二	一	〇一	一	二	三	四	五	六	七	八	一、〇五七〇二
五九、七三六、八二三	一四四五七二〇七二	一	〇一	一	二	三	四	五	六	七	八	一、〇八三三三
一四、三二一	二七七一四四二一九四	一	〇一	一	二	三	四	五	六	七	八	一、〇四六六六六

萬ニ對スル
該年齡級
人口一
當該年齡級
人口

(八) 腸又腹膜ノ結核

萬當該年齡級別人口死亡	人當該年齡級	計	女	男	不詳	合年齡
○、六二	一、九八	一、九〇九〇	一、三七七	一、〇九一	一、〇九〇	八、二六四、五八三
二、〇〇	一、九二	一、九二〇、七二四	二、二七六	一、六五、四九八	一、六五、七二五	一、六五、七二四
三、三八	一、七〇	一、九二四、四三二	三、二五三	一、五八〇、一七二	一、五九七、四二七	一、五九七、四二七
五、七二	一、四八	六、九二四、四三二	四、二五三	一、三九三、四七一	一、五八〇、一七二	一、六五、七二五
八、四一	一、〇一	六、七三五、〇三〇	五、二五三	三、七一六、〇八七	一、三九三、四七一	一、三九三、四七一
三、七一	二、〇〇	五、〇六〇、五二七	三、二二一、七六五	三、〇五五、一四九	二、四五〇、九〇三	二、四五〇、九〇三
五、七四	一、七〇	六、九二四、四三二	二、八六二、六八一	二、一九九〇、八一七	一、九九〇、八一七	一、九九〇、八一七
二、一七	一、四八	二、〇〇	二、一九四、〇七二	二、一九四、〇七二	二、一九四、〇七二	二、一九四、〇七二
二、二七	一、四八	一、九六	一、九六	一、九六	一、九六	一、九六
二、三三	一、四八	六、九	六、九	六、九	六、九	六、九
二、七五	一、四八	〇、八五	〇、八五	〇、八五	〇、八五	〇、八五
三、七一	一、四八	三、八三	三、八三	三、八三	三、八三	三、八三

(三) 腦膜及中樞神經系ノ結核

		年 齡		萬ニ對スル結核死亡
統計	詳計	男	女	
合年齡	九〇八〇七〇六〇五〇四五〇三四〇三二〇二一〇一五	〇	一	
不詳	八九九九五四五四四四三四二四二一一四九四三二一〇四			
二、九二五	一〇一二〇二二六四八五三五二三三〇二二〇一四一六〇二六一四五二一九三一九四三			
二、七九八	一九九九二〇三三三九四五八六一七六三三五四〇一〇四一四六一五五二三三三			
五、七二三	一九〇二〇四〇六九二一九二四〇七二四九三五九一三〇九二四〇七四〇一七六三五三〇九一七五〇			
五九、七三六、八二三	一四、四五七二二七〇、〇七二一四、四五七一四九九〇、九〇三三、二二一、七六五三、〇五五、一四一、四四二、一九四二、八六二、六八一三、四四九、三七七三、七一六、〇八七五、〇六〇、五二七			
一、九六	一〇一〇一〇一〇一〇一〇一〇一〇一〇一〇一〇一〇一〇			

(ホ) 其ノ他ノ結核

一〇八二

		年齢		年	
		男		女	
				計	
合	年	九〇八〇七〇六〇五〇四五〇三〇二〇一〇五		〇	一
齡		一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一			
不		八九七九六五五四五四三四三九二九一四九四三二一〇四			
計詳		一一一一一一一一一一一一一一一一			
二、八二〇		一〇六七〇六六二六六七〇七九一〇六二一三三二一四八二一四二五四〇六二〇三二一三四二八二五			
二、五三六		一八三二六五二六七三七三一八二五二一九五二八二三七九三三三二一四八二五二三一三九三二二一四二七五			
五、三四六		一〇四二六三三一四三一四二一六二二三四二四二三三一四〇九七〇八三四七八五四五五六二八二一〇二九八二九〇一〇二五九六			
五、七三六、八二二		一四、四五七二二七〇、〇七二一四、四五七一、四四二、一九四二、八六二、六八一三、〇五五、一四九三、三四四九、三七七三、二二一、七六五四、三九三、四七一六、七三五、〇三〇五、八八五、二七七五、〇六〇、五二七一、五九一、七五七、一五八〇、一七七一、五八〇、一九八一、六、九二四、四三三一、五九七、四二七一、六五一、七五四九八			
〇、八九		〇、〇、〇、〇、七三一、一〇九一、一〇六一、一〇六五、一〇六八、〇、五三、〇、三二、〇、五一、一、六二、一、六五、一、三三、〇、六八、〇、四一、一、五五、〇、八二、〇、八二			
		萬當該年齡級別人口死亡			

五、結核死亡累年表

年	次	人口五萬以上ノ市		死肺 結核	其ノ他ノ市町村肺 結核死亡	死全 結核	國
		死肺 結核 其ノ他ノ市 結核死亡	死全 結核 其ノ他ノ市 町村肺 結核死亡				
昭和	年	年	年	年	年	年	年
昭	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
大	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
同	年	年	年	年	年	年	年
明	年	年	年	年	年	年	年
治	年	年	年	年	年	年	年

統計

備考 大正十二年以後ノ各年「人口五萬以上ノ市」欄ニ記載セル數字ハ人口十萬以上ノ市ニ係ルモノトス。

統計

六、人口一萬ニ對スル結核死亡累年表

年次	人口五萬以上ノ市		其ノ他ノ市町村		全	
	肺結核	其ノ他ノ核	肺結核	其ノ他ノ核	肺結核	其ノ他ノ核
明治四十五年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
四十六年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
四十七年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
四十八年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
四十九年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五十一年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五十二年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五十三年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五十四年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五十五年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五十六年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五十七年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五八年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
五九年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六十一年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六十二年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六十三年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六四年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六五年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六六年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六七年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六八年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
六九年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七十一年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七二年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七三年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七四年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七五年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七六年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七七年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七八年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
七九年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八〇年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八一年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八二年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八三年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八四年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八五年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八六年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八七年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八八年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
八九年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九〇年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九一年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九二年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九三年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九四年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九五年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九六年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九七年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九八年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
九九年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
二〇〇〇年	八、七	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九

備考 大正十二年以後ノ各年人口五萬以上ノ市欄ニ記載セル數字ハ人口十萬以上ノ市ニ係ルモノトス

抄 磁

結核専門雑誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose B. 72,

H. I. 1929

1、「ヴィタミン」缺乏ガ結核ノ経過ニ及ボス

影響ニ就テ(白鼠ヲ用ヒタル試験)

Karl Hagedorn.

著者ハ通常飼料ヲ給セル「ラット」ヲ第一列トシ、「ヴィタミン」A 缺乏飼料ヲ給セルモノヲ第二列、「ヴィタミン」B 缺乏飼料ヲ給セルモノヲ第三列、「ヴィタミン」C 缺乏飼料ヲ給セルモノヲ第四列、合成飼料ヲ給セルモノヲ第五列トシ、各列ノ「ラット」ニハ結核菌ヲ腹腔内注射ニテ感染セシメ、各列共同數ノ對照ヲ置キテ十五週間飼育シ「ヴィタミン」缺乏食ニ於ケル實驗的結核ノ經過ニ就キテ研究シタルガ大體次ノ結果ヲ得タリ。

通常ノ冬期飼料ヲ與ヘタル第一列ニ於テハ特別ナル「トナク、又適當ナル「ヴィタミン」量ヲ以テ補ヒタル合成飼料ヲ與ヘタル第五列ニ於テハ生物學的ノ價值充分ナラズ。

總テノ列ニ於テ結核感染「ラット」ハ對照ニ比シテ發育程度惡シ。

「ヴィタミン」缺乏飼料ヲ以テ飼育セル「ラット」ハ通常飼料ノ「ラット」ニ比シ

發育惡シク、又其結核病變ハ全身のニ進行シ、局所ノ病變モ亦一般ニ擴張セ

ルモノ多シ。

「ヴィタミン」缺乏飼料ヲ供セル動物ハ一般ニ寒冷ニ對スル抵抗力ヲ減ズ、尙ホ結核感染動物ニ於テハ特ニ甚ダシ。

「ヴィタミン」ノ種類ニ依リテ其影響ヲ異ニス、此關係ハ恐ラク動物ノ種類ニ依リテ異ナルモノナラン。

「ラット」ハ「ヴィタミン」Aノ缺乏ニハ堪へ得ズ「ヴィタミン」A缺乏飼料ヲ給セシ「ラット」ハ體重ノ増減、結核病變ノ全身進行ノ時期、局所病變ノ擴大、總死亡數、寒冷ニ對スル抵抗力等ニ對シ最モ惡シキ關係ヲ有ス、此現象ハ一樣ナラザレド最初ニ於テ強ク進ムモノナリ。又「ラット」ハ少量ノ「ヴィタミン」Aヲ蓄積スルコトヲ得。

「ヴィタミン」C缺乏飼料ヲ以テ飼育セシ「ラット」ハ總體的關係最モ「ヴィタミン」A缺乏飼料ヲ以テ飼育セルモノニ類似スルモ、體重ノ關係、一般狀態等ハ「ヴィタミン」A缺乏飼料ニ於ケルモノヨリモ良シ。又結核病態ノ擴張モ僅カナリ。

「ヴィタミン」B缺乏飼料ヲ給セシ「ラット」ハ比較的良好ナル「經過ヲ取リタリ。

肺ノ結核病竈ノ個々ノ結節ノ大キサハ種ナルガ、「ヴィタミン」A缺乏飼料ヲ給セシ「ラット」ニ於テハ、小ナル結節ヲ有スルモノ多シ。
ワツセルマン結核反應ハ對照即チ非感染動物ニ於テハ陰性ナリ。結核感染「ラット」ハワツセルマン結核反應陽性ナルモ「ヴィタミン」B缺乏「ラット」ハ他ノ「ヴィタミン」缺乏「ラット」ニ比シ陽性度僅カナリ。

(小林抄)

2、肺結核ノ炭素療法ノ作用ニ就キテノ解

剖生理學的研究

Heinrich Gickler.

著者ハ肺結核炭素療法ノ作用ニ就キテ動物實驗ヲ行ヒタリ。

炭素注射後微量ノ炭素末ハ肺、肝、脾、一部ニ蓄積セラル。炭素末注射後二段ノ熱反應ヲ起ス、即チ最初ニハ組織反應ニ依リテ起り、次テ肝及ビ脾ニ於ケル大量ノ白血球崩潰ニ依リテ熱反應ヲ起スモノナルモ之ハ局所反應トシテハ説明サレズ。

炭素末注入ニ依リテ結節ガ細胞ノ變化ニ依リテ結緒織トナルコトハ觀察シ得ルモ、コハ全ク非特異性ノモノニシテ病竈周圍ニノミ炭素ガ沈著シテ結緒織ヲ造ルモノニアラズ。

3、空洞治療ノ新意義ニ就テ

W. Bronkhorst.

著者ハ空洞ヲ有スル結核患者ニ就キテ臨牀及ビ「レントゲン」觀察ヲナシタ

リ。著者ノ觀察セルモノ、中四十例ハ其空洞ニ大變化ヲ起シタルガ其中定型的ノモノノ五列ヲ舉ダ詳細ニ報告セリ。即チ二例ハ連續的「レントゲン」寫真ニ於テ輪狀陰影ガ次第ニ縮小シ遂ニ小ナル瘢痕陰影トナリテ全ク消失セリ。他ノ三例ハ就レモ始メノ輪狀陰影ハ次第ニ縮小シ小ナル斑點トナリタルガ、再び明カナル輪狀陰影ヲ生ジ且ツ其大サヲ増シタリ。

4、結核ニ於ケル脾臟食餌ニ就テ

P. Rutgers und A. Kamsler.

著者等ハ毎日一〇〇乃至一五〇瓦ノ脾臟ヲ比較的其マヽノ形ニテ即チ「ビフテキ」様ニ輕ク焼キ、或ハ乾燥シテ粉末トナシタルモノヲ結核患者ニ與ヘテ觀察シタリ。

脾臟食ノ效果ハ既ニ二乃至三週頃ヨリ見ラル、モノニシテ二ヶ月ノ終リニ至レバ明ニ知ルコトヲ得タリ、即チ著者ハ十二例ノ結核患者ニ脾臟食事ヲ攝取セシメ、其血液像、體重、體溫、喀痰、咳嗽等臨牀的狀態ヲ觀察シ詳細ニ説明シ實際的ニモノヨリ結核ニ對シテ效果多シト報告セリ。

尙ホ又學理的立場ヨリ云フモ、肺ト結核ノ脾臟トノ間ニハ或關係ヲ有ス可ク

洞ノ擴大セラル、時ニハ結核菌多ク喀出セラレ、空洞ノ縮小セル時ニハ減少

ス、此關係ハ以上ノ五例ノミナラズ四十例ニ於テ認メタル所ナリ。又喀痰量ニ於テモ同様ナリ、喀痰ノ量、及び肉眼的所見、菌數、彈力纖維等ハ空洞ト大ナル關係ヲ有スルモノナル故空洞ノ觀察ニハ喀痰検査ヲ度々行フコトヲ必要トセリ。

「レントゲン」寫真ニ於テ定型的ノ輪狀陰影ハ、著者ノ有スル一〇〇例以上ニ於テモ亦多クノ病理解剖學者ノ說ニ依ルモ必ズ空洞ナリ。

空洞治療ニ關シテハ、著者ハ從來空洞ヲ單一ノモノト考ヘシガ此觀察ニ依リテ空洞ハ寧ロ二ツニ區別ス可キモノナルコトヲ知レリ。即チ一ツハ浸潤ニ副ヒテ新シキ薄キ壁ヲ有スル空洞ニシテ、自然ニ急ニ縮小スル傾向ヲ有シ、小ナル瘢痕トナリテ治癒ス可キモノナリ、他ハ硬化性空洞ニシテ纖維性萎縮ノ結果徐々ニ空洞層ガ上皮化シテ多クハ唯部分的ニ留リテ治癒スルモノナリ。

(小林抄)

脾臓が直接結核菌ヲ弱メルカ又ハ間接ニ臓器ノ抵抗力ヲ増加セシムル上ニ效果ヲ有スルカ、或ハ又「ホルモン」ノ作用ニ依ルカ、又ハ造血的作用ニ依ルモノナルカ、是等ノ關係ハ未だ全ク疑問ナレドモ著者等ハ此關係ニ就キテ研究ヲ始メツ、アル由ナル故其結果ハ追テ發表セラル可シ。

(小林抄)

5、第一期肺結核患者ノ轉歸ニ就ト

E. R. Kritschewskaja.

著者ハ一九一二、一三、一四年ニ於ケル病歴ニ依リテツルバン氏分類ニ依リテ第一期ノ肺結核患者六三六名ニ就キテ其轉歸ヲ調査セリ。右ノ中二九六例ハ全ク不明ナリシガ三四〇例ニ就キテ知ルコトヲ得タリ。

一九一二年當時ニ於テハ結核相談所ニ於テハ「ノントゲン」裝置ヲ有セザリシ故臨牀的、細菌學的診斷ニ依リタルモノナリ。是等第一期ノ患者ニシテ十五年後ニ於テハ、一四歳以下ノモノハ八〇%生存ス、一五乃至一九歳ノモノハ四七・五%生存、二〇乃至二九歳ハ五八・九%生存、三〇乃至三九歳ハ四五・一%生存、四〇乃至四九歳ハ三〇・二%生存、五〇乃至五九歳ハ生存零ニテ一〇

(小林抄)

6、小兒ニ於ケル心臓轉位ヲ伴フ肺萎縮

Anne Hecker, H.

著者ハ五例ノ肺萎縮ヲ有スル小兒ニ就キテ觀察シタリ。肺萎縮ノ種々ノ型ノ

發生原因ニ就キテハ診斷上困難ナルモ之ハ臨牀的觀察ニ依リテ說明セラル可キモノナリ。

著者ノ例ニ於テハ肺萎縮が結核竝ビニ肺炎、及ビ氣管枝擴張、等ニ原因シテ起リタルコトガ其病歴ニ依リテ暗示セラレタリ。

肺萎縮ノ際ニハ縱隔竇、及ビ内臓ノ高度ノ轉位ヲ起スコト多シ、而シテ小兒ニ於テハ成人ニ於ケルヨリモ屢々起ルモノナリ。

心臓轉位ハ自覺的障碍ヲ有スル事僅少ナリ、之レハ比較的良好ナル解剖學的關係ニ依ル事ト又徐々ニ起ル變化ニ對シテ身體が適當ニ對應スル關係ニ依ルモノトシテ説明シ得。最後ニ著者ハ是等ノ肺萎縮ヲ有スル小兒ニ對シテ其就學狀態及ビ將來ノ職業問題等ニ對シテ充分ナル注意ヲ拂ハソント希望セリ。

(小林抄)

Zeitschrift für Tuberkulose. Bd. 53, Heft 5,

1929

7、開放性結核ヲ有スル家族ト住居ヲ共ニス

ル小兒ノ運命及ビ其ノ醫師ニコル影響

H. Braeuning, u. M. Neumann.

二三七三例ニ就キニ乃至一七年間ノ觀察ヲ行ツタ。開放結核患者ノアル家族カラ生レタ年少者ノ結核死亡率ハ然ラザル家族ヨリノ夫レニ比シテ甚ダ多ク、其ノ年齢的關係ハ生後ヨリ第一年が最モ危険デ三〇・五倍デアリ、其ノ後ハ急ニ減少シ一六歳ヨリ再び增加シニ五歳マデハ三・一乃至五・七倍デアル。

モノハ自覺症候甚ダ少ナク而モ潛行的ニ進行シテ其ノ死亡曲線ハ露出ノアツタ三年後ニ始メテ上昇スル。患者ニ對シテ小兒ガ露出サレ始メタ時ト死亡トノ間ノ複雜ナ時期的關係ハ表及ビ圖ヲ以テ説明シテキル。統計ノ上カラ思春期ニ於テハ露出ノナクナツタ後デモ屢々罹患スルモノト想像シ得ルが四乃至一二歳デハ露出ガナクナレバ結核性荷重ノナイ小兒ト同様ナ罹患、死亡率トナリ露出サル、時ハ二・七乃至三・九倍モ多クナル。而シテ露出度ノ大ナル程此ノ數ハ上昇スル。著者ハ露出度ヲ開放結核者ニシテ衛生的生活ヲナシ、加答兒症狀ナキモノ即チ濃厚感染ヲナサシムル危險ノ少ナイモノヨリ相反ノ狀態ニアルモノ迄ノ四階程ニ分ケタ。露出度ハ小兒ノ運命ヲ著シク左右スルモノデ露出度IVノモノ、死亡數ハIノモノ、二・八乃至八・五倍ニマテ達スル。

性ト結核死ノ關係ハ數ノ上デハ餘り差ハナイガ就學兒童ニ就テ行ツタ二九四年ノ觀察ニ從ヘバ少女ハ少年ヨリ重症結核ニ罹ル。患者ト同居シテキタ小兒ハ其ノ感染源ノ消失シタ後デモ屢々容易ニ結核ニ罹患スル爲ニ體質的素質ヲ云爲スル人モアルガ之ハ意義ノ少ナイモノニアラウ。小兒ノ結核罹患及ビ結核死ハ露出サレタル年齢ト露出度ガ運命ニ對スル決定的要素デアルカラ露出度ヲ少ナクスレバ罹患率ヲ減少セシメ得ルワケデ露出度ハ患者ノ病型（加答兒ノ有無）トカ四圍ノ衛生狀態ニ關スルモノデアルカラ此ノ點ニ注意スレバヨイ。又年齢的素質ニヨル危險ヲ除ク。最モ死亡率ノ多イノハ生後ヨリ第一年ト一〇乃至二〇歳デアルカラ此ノ點ニ配慮スル。即チ前ノ場合ハ感染ヲ豫後ニ對シテ最モ良好ナ第二年以後一〇歳マテノ間ニ延ス様ニ努メル事が必要デ此ノ爲ニハ出産前ヨリ生後二年マテハ危險ナ周圍カラ隔離スルカ、患者自身ヲ隔離スルカ、止ムヲ得ヌ時ハ患者ニ「ベスク」ヲ使用セシメ乳兒ハ紐デ結ベル籃ニ入レテ一定ノ範圍ノ外ヘハ出サヌ様ニスル。一〇乃至二〇歳ノモノ

ニ對スル防衛ハ其ノ期間が長イ丈ケニ困難デアルカラ二一五歳マテハ屢々「ントゲン」診察其他ノ方法ヲ以テ出來得ル丈ケ早期ニ罹患ヲ發見スル様ニ努ムル。菌剤ノ豫防接種、「ツベルクリン」ヲ以テスル豫防法等ハ其ノ成績が不定デ寧ロ有害無益デアル。

（池上抄）

8. 有機體内ニ於ケル B. C. G. ノ運命ニ就テ

M. A. Lubarski.

一〇四ノ海猿デ或ハ腹腔内ニ或ハ皮下ニ五庭ノB. C. G. ノ注入シテ夫レノ動物體内ニ保持セラル、期間及ビ運命ニ就テ探究シタ。B. C. G. ノ證明ハ淋巴腺。諸臓器ノ切片標本。所屬淋巴腺。菌注入部位ノ塗抹標本及び其他ノ臓器ヲ一五ジノ「アンチフォルミン」溶液ヲ以テ處置シ其ノ遠心沈澱沈渣ヨリ塗抹標本ヲ作リテ之カラ行ツタ。菌注入後六乃至八ヶ月デ何等全身的病症ヲ現ハサヌニモ拘ラズ上記標本中ニ微量ノ抗酸性菌殊ニ壞滅シタ抗酸性顆粒トシテ多ク存シ、又腸管内ニ證明セラレタ。併シ、溶菌現象、溶脂現象ハ認メラレナカツタ。皮下ニ注入サレタ例ハ腹腔内ニ注入サレタ例ヨリモ長期ニ亘ツテ證明サレタ。「カルメット」ニヨリ免疫基礎トシテ有效デアツタ菌ハ此ノ様ニ壞滅ニ歸シテ顆粒トナリ或ハ腸管ヨリ排出サル、故ニ之ニヨリテ得ラル、免疫ハ一年ヲ越エヌ。從テ再接種が必要トナルガ、前述ノ様ナ諸種ノ關係デ其ノ接種ハ何等危險ヲ伴ハス。

（池上抄）

9. 兩側氣胸ヲ以テセル肺結核ノ療法

L. Danner. u. S. Spiro.

滲出型デ高熱アルモノ。病機が廣汎ニ及ベルモノヲ除キ、長期ニ亘ツテ行ハレタ各種治療ノ奏效ナキモノ。兩側肺ニ空洞ヲ有スルモノ等ニ就テ一六例ノ

観察ヲ行ツタ。高熱ガアリ又喉頭結核アルモ全般状態ノ良キモノニハ行ビ。

腸結核アル者ハ禁忌トシタ。兩側同時ニ氣胸ヲ置ケルモノ一〇例、異時ニ置

ケルモノ六例ノ中、其ノ結果ハ兩者共稍々同一デ喀痰量ハ減ジ無熱トナリ、體重增加シ或ハ空洞縮小シテ自覺的ニモ良好トナツタモノ六例、満足スペキ

結果ト思ハル、モノ三例、尙ホ成績不明ノモノ三例、不幸ノ轉歸ヲトレルモノ四例デアツタ。病竈部ノ肋膜間ニ癥者ノアルタメ他肺部が萎縮シタルニモ拘ラズ此ノ部ガ呼吸運動ニ過度ニ荷重サル、時ハ瓣狀氣胸ヲ來ス危險ガアル。之ヲ避クル爲ニ著者ノ行ツタ注意ヲ擧ゲテキル。

(池上抄)

10、人工氣胸術施行後滲出液ノ出現ヲ來ス

場合ニ於ケル肋膜腔内壓ト急性炎症症 狀トノ關係

B. Papanikolan.

人工氣胸術施行ノ後、合併症トシテ屢々肋膜腔ニ滲出液ノ出現ヲ認メル。其ノ始リ方ハ體溫上昇、胸痛、呼吸困難等ノ急性症狀ヲ以テスル事アリ、又甚ダ輕微カ全ク自覺症狀ヲ缺如シテ始ツテ來ルノキアル。二六例ニ當テ著者ノ行ツタ觀察ニヨレバ、滲出液ノ形成ヲ來ス場合デ急性症狀ヲ以テ始マル例ハ肋膜腔ノ内壓ハ(+)ニ荷重サレテオリ。症狀ノ急徳ナイガ、著シクナイ様ナ例デハ(+)ニ支配サレテ居ル。急性期ニ於テ肋膜腔ノ内壓ノ關係ヲ調整スル事ニヨリ炎症度ノ甚ダ顯著ナ緩和ヲ企圖シ得且ツ急性期ノ速カナル經過ヲナサシメ得ル。

(池上抄)

Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 53, H. 6.

1929

11、Thüring 地方傳染病法ノ法案ニ於ケル

結核

J. E. Kayser-Petersen.

一、結核豫防ニ關シテ理想的要求トスルモノハ國家結核法デアル。

二、國家ガ尙ホ未ダ此關係ヲ拒ム間ニ於テハ之が解決トシテ各地方が此ノ缺陷ヲ補フヲ良シトス。此際各ノ結核法が結核救療法ノ色彩が多イ程ソノ結核法トシテノ效果が充實サレル。

三、一般傳染病法中ニ結核ヲ含マセルコトハ未ダ如何ナル方面ニ於テモ試ミラレナイコトデアルガ、之ハ最惡ノ解決法デアル。

四、若シ Thüring ニ於テ實際ニ此ノ試ヲ行ハントスルナラバ少クトモ結核豫防ニ對シテハ特別ノ實施法規(結核救療法規ト命名シテ)ヲ制定シナケレバナラヌ。

(黒丸抄)

ナラヌ。

12、結核豫防ニ於ケル強制ノ必要ト限界

G. Krutzsch.

一、感染危險ヲ有スル肺結核患者及ビ其周圍ノ者ハ其所屬ノ醫療所ニ於テ診查及び經過觀察ヲ受ケケレバナラスト云フ法律的義務ヲ定メルコト。

二、感染危險ヲ有スル肺結核患者及ビ其周圍ノ者ハ其所屬ノ醫療所ニ於テ診

三、一定ノ職業、例ヘバ教師、患者ヲ治療スル者、看護者、及ビ其職業ニヨリテ結核ヲ有スルガ爲ニ公衆ニ危險ヲ及ボスガ如キ職業ニ從事スル者ハ規則的ニ醫師ニヨリテ後診査ヲ受ケナケレバナラスト云フ法律的義務ヲ定メルコト。

四、是等ノ職業ニ從事シテキル感染危險ヲ有スル者ニ對シテハ若シ其患者ガ公衆ノ利益ノ爲ニ其職業カラ一時的又ハ持續的ニ離レナケレバナラスト云フコトが法律的ニ強ヒラレナケレバナラス場合ニハ此ノ法律ヲ充分ニ適用スル様ニ社會ノ法律的義務ヲ定メナケレバナラナイ。

五、結核ヲ有スル者ニシテ是等ノコトヲ聞カシテモ分ラス者及ビ惡意ヲ有スル例外ノ者ニ對シテハ強制的隔離ヲ行ヒ、必要ナ場合ニハ之ヲ嚴密ニ實行シ得ルト云フ法律的可能性ヲ定メルコト。

(黒丸抄)

13、肺結核ノ療養所治療ノ實際的價値ノ問

題ニ就テ

C. Kruchen.

著者ハ一九二〇乃至一九二一年ニ於テ Dortmund, Gelsenkirchen, Hörster 等ノ地方ノ療養所及び救療所ニ於テ治療ヲ受ケタル患者ニシテ出來得ル限り平等ナル條件ニアル肺結核患者ヲ選擇シ、是等ノ患者ヲ六乃至八年後ニ於テ検査シ其結果ヲ統計的ニ觀察セリ、而ルニ療養所ニ於テ治療ヲ受ケタル一七七例ニ於テハ八七・五% 生業能力ヲ有シ、救療所ニ依ル一二二例ニ於テハ三六・三% 生業能力ヲ有セリ、又同時期ニ於テ前者ニ依ルモノハ九二・六% 生存シ、

後者ニヨルモノハ四九% 生存セリ、之ニ依リテ見レバ療養所ニ於テ治療ヲ受ケタル者ノ結果ハ救療所ニ依ル者ヨリモ(最初ヨリ療養所ニ於ケル患者例材料ハ救療所ニ於ケル者ヨリモ多少良好ナリシトハ云ヒ) 實際上ニ於テ良好ナリト決定スルコトヲ得ト述べタリ。

14、外的障礙ニ對スル結核菌ノ抵抗力ニ就テ

R. Bieling.

著者ハ二種ノ結核菌株ヲ用ヒ、其菌液ニ七十乃至一〇〇度ノ熱ヲ一定時間與へ然ル後此ノ菌液ヲ一定量「モルモット」ノ皮下ニ接種シ一定期間後是等「モルモット」ノ「ツベルクリン」反應ヲ檢シ又剖檢ニヨリテ其病的變化ノ有無ヲ檢シ次デ其動物ノ内臓及び淋巴腺内容ヲ他ノ「モルモット」ニ接種シテ其動物ノ剖檢ヲ行ヒ細菌學的病理學的檢查ニヨリテ是等動物ニ結核性變化ヲ惹起セシメタルコトヲ證明シ、結核菌ハ高熱ニ對シテ著シキ抵抗力ヲ有スルモノナリト結論セリ。

(黒丸抄)

15、油胸ノ理學的及生理學的基礎並ニ臨牀

上結核ニ就テ

Karl. Diehl.

著者ハ肋膜腔内ニ液體ノ存在スル場合ノ一般的ノ生理學的並ニ機械的關係ヲ述べ、次テ油胸ノ場合ニ於ケル特別ノ關係、油ノ吸收問題ニ就テ述べ、而シテ尙ホ油胸ノ實施及び其結果ニ就キ詳論セリ。

(黒丸抄)

16、「イヒチオール、カルシウム」ノ肺結核

ニ對スル作用ニ就テ

E. Melzer.

著者ハ「イヒチオール、カルシウム」ノ五・〇%水溶液ノ靜脈内注射ヲ肺結核患者ニ就キ試ミタリ。患者ハ總數五四例ニシテ年齢ハ一八歳ヨリ四五歳ニ達スル者ナリ、此内二七例ハ進行性空洞性結核ニシテ、三例ハ增殖型中等度重症、一〇例ハ硬化型、五例ハ滲出性肋膜炎、九例ハ輕度初期結核ナリ。而シテ治療ヲ試ミタル結果、進行性ノ患者ニ對シテハ本劑ハ消炎作用ヲ有シ又精神的

症狀ニ對スル鎮靜作用ヲ示セリ、即チ盜汗ヲ減ジ安靜ナラシメタリ、サレド

熱、咳嗽、咯痰、胸部所見ニ對シテハ影響ヲ見ザリキ、輕症初期ノ患者及ビ增殖性中等度重症ノ患者ニ對シテハ食慾ノ増進、體重增加ヲ來セリ。慢性硬化性ノ患者ニ對シテハ最モ良好ナル影響ヲ示シ、亞熱性ノ熱ヲ下降セシメ一般狀態ヲ著シ可良ナラシメタリ、即チカ、ル例ニ於アハ本剤ハ非特異性刺載療法ト考ヘ得可シ。

(黒丸抄)

17、刑務所ノ結核

M. Kallweit

著者ハ囚人結核ニ關スル統計ヲ舉ゲ、其囚人結核患者ニ對スル治療並ニ其周圍ニ對スル豫防法ニ就キ述べ、刑務所結核ノ豫防撲滅ハ結核豫防上必要ナルトハ論セリ。

18、Dr. Med. H. F. Schoepfer 氏ノ本誌五I

卷II號(一九一八)ニ於ケル「肺結核ト人」
太陽燈竈「田光」ナル論文ニ對スル答論

Hugo Bach.

The American Review of Tuberculosis; Vol. XX, No. 1, 1929

19、公衆保健上ニ於ケル Hermann Biggs 氏
ノ功績

C. E. A. Winslow

先年(一九二二年)物故セル同氏ノ醫學者並ニ政治家トシテノ功績ヲ述べタルシテ、當時ニ細菌學ノ興りシ當時ニ於ケル歐米學會ノ事情ヲ記セリ。

抄 稿

氏ノ事績ニ關シテハニューヨーク市ノ水道、「ロング」豫防(一八九二)、「ザフテリア」治療(一八九三)、結核豫防等ニ關シテ詳述シ、氏ノ功業ハニューヨーク市ニ於ケル死亡率ヲ一八九七年前ノ二十一・一一%より一九二七年ノ一十一・一%ニ低下セシメタリトナセリ。尙ほ本文ハ更ニ追補セラ、The Life of Hermann Biggs, Physician and statesman of the public health"ナル標題ハ下ニ單行本トシテ刊行セラル可キ由ナリ。

(岡抄)

20、感情ト結核

Ray Mars Simpson (Chicago)

患者ハ心理學者ニシテ、心理學的立場ヨリ感情トハ如何ナルモノハカ (Claparede, Janet, Jolson, A. Adler, Pieron 其他)、感覺トハ如何、是等ノ過去、現在ニ於ケル所說ヲ綜説シ、感情ノ計測ニ關シテ十數氏ノ實驗心理學的方法及び結論ヲ詳説セリ。而シテ感情ナルモノハ結局結核ノ療養上有害無益ナルモノナリト断セリ。

(岡抄)

21、Prendergast Preventorium ナ選院セル兒 童ニ關ヘル論著

J. B. Hawes(Boston)

一九二二乃至二六年ニ亘リ四ヶ月以上(在院平均七・三二月)在院セシ兒童二〇名ニ就テ退院後ノ情況ヲ調査セルモノナリ。年齢六乃至二二年、退院後何レモ二年以上経過セリ。此内現在結核患者トシテ取扱ハル、モノ五名「ハイスクール」ヲ卒業シ健全ナルモノ二七、通學中一五、死亡者ノ記載ナシ。著者ハ「アーベントリウム」ヨリ再び開性結核患者ノ在ル家庭ニ歸ルハ不可ナ

リトヤリ。

(岡抄)

22、正規物理的胸部検診ノ補助法トシテノ「レントゲン」透視ノ價値

A. C. Reid (N. Y.)

ニューヨーク市「メトロポリタン」生命保険會社ノ使用人採用ニ際スル健康診断ニ「レントゲン」透視ヲ用ヒタル成績ノ報告ナリ。同社員ニシテ一九二四年至二七年ノ四年間ニ結核患者トシテ同社ノ「サントリウム」ニ送ラレタルモノ中入社後十八ヶ月以内ノモノ五三名ナリ。内二八名ハ入社後十二ヶ月以内ナリ。著者ハ肺結核初期ノ診断ハ「レントゲン」線ニ據ラザル可カラザル理由ヲ文獻ヲ引用シテ説キ、又著者が行ヒタル透視法ヲ詳説セリ。同方法ヲ以テ健診社員二三名ニ就テ検診、習得セル後一九二七年十月一日以後一年間ノ入社志願者四八八三名ニ就テ同透視法ヲ行ヒタル結果正規ノ物理的診察方法ニテハ全ク證明シ得ザル、解剖學的結核ヲ五九名ニ證明シ得タリ。透視方法ニ就テハ特ニ新シキモノ有ルニ非シテ從來ノ方法ヲ系統立テタルモノナリ。

(岡抄)

23、結核ニ於ケルシリング氏血球鑑別計算

二就テ

J. F. Bredbeck (St. Louis)

シリング氏ノ血球分類及ビ其ノ形態學ニ就テ詳述シ、特ニ Jugendliche und Stabkernige neutrophile Leukozyten 之關シテ記載セリ。著者ハ尙ホ血球計算ト皮下「シベルクリン」反應トヨ闘連シテ行ヒ、其結果鑑別計算ノミヲ以テ診斷ヲ附スル事ヲ得ザルモ病勢ヲ知ルニハ最モ簡單ニシテ優秀ナル方法ナリ

トセリ。即チ活動性結核ニ於テハ「ツベルクリン」皮下注射ヲ行フ時ハ發熱ヲ起ス前ニ既ニ血液ニ變化ヲ來シ恒常的ニアルチット氏左方變位ヲ證明シ得可シ。或ハ一般的症狀ヲ起サマル程度ノ少量ナル「ツベルクリン」注射ニヨリテモ尙ホ此ノ血液變化ヲ證明シ得。淋巴球ハ病勢ノ進行ト共ニ減少シ、治療ニ向フト共ニ増加ス。單核細胞ハ初期ノ活動期及ビ治癒期ニ増加ス。即チ淋巴球及ビ單核細胞多ク、中性多核白血球ニ變化無キハ治癒ニ向ヘル事ヲ示シ、淋巴球減少、單核細胞增加、中性白血球左方變位ハ活動性進行性ナリ。故ニ結核ノ豫後ハ中性白血球ノ變位ノ程度、淋巴球ノ增加如何ニヨリテ示サレ得可シトナセリ。

(岡抄)

24、結核ノ合併症無キ疾患ニ於ケル「レゾル

チノール」反應ノ關係

A. B. Baylis (N. Y.)

著者ハ一九一八年本誌十八卷五一三及ビ八四三頁、及ビ Proc. Soc. Exp. Biol. a. Med. Vol. 25, p. 482 等ニ於テヴェルヌ氏反應及ビ其ノ變法ヲ發表シ、同時ニ成績、特ニ結核ニ就テ報告セリ。今回ハ結核ノ合併症無キ各種疾患一五六例ニ就テ検査七〇七回ヲ行ヒテ之レヲ報告セリ。著者ノ方法ハヴェルヌ氏法ヲ更ニ簡單ニセルモノニシテ敏感度ガ之レニ及バザル丈ケニ陽性ノ場合ノ意義多シト云ヘリ。之ニヨリテ活動性ノ程度ヲ知リ得トセリ。(岡抄)

25、氣胸ニ酷似セル皮下氣腫ニ就テ

J. R. Head (Chicago)

同上ニ關スル患者二例及ビ其實驗ノ簡單ナル報告ナリ。肋膜外胸廓成形手術ヲ後上部ニ行ヒタル二名ノ結核患者が手術後同側ノ前胸上部ニ打診鼓音、呼

吸音消失、聲音減弱、ヲ起セルモ「ノン・ムゲン」診斷上氣胸ノ存在ヲ認メズ、而テ觸診ニヨリテ「クレビタチオン」ヲ證明ス。即チ手術ニ際シテ皮下ニ空氣侵入シ。前部ニ移動セルモノト考ヘラル。故ニ犬ヲ用ヒ皮下ニ三〇粩ノ空氣ヲ注入セルニ同様ナル症狀ヲ呈シタリ。

(岡抄)

26、種々ナル蛋白質體ニ據テ天竺鼠ニ生成ス

ル「ツベルクリン」過敏症ニ就テ

L. Dienes & E. W. Schoenheit(Ashville)

著者ハ「ツベルクリン」皮膚局所反應ハ蛋白質體ニ據テ生成セラルトノ考ヘラ有シ、之ヲ證明セムガ爲メニ行ハシタル實驗ナリ。本實驗ニ於テハ從來著者ノ報告シ來レル(J. Immunol., 1927, Vol. 14, p. 9; 1928, Vol. 15, p. 141& 153)モノニ續ケルモハニシテ尙ホ本年中ニ三報告續出ベシムト也。今回ハ主トシ卵白質體ヲ以テヤル實驗ニシテ、「ツベルクリン」反應ヲ局所皮膚反應ト全身反應(シヨック現象)トニ分チ、卵白蛋白質ニ於テハ全身反應ヲ起サルモ、局所反應(壊死)ハ全ク同様ナルモノヲ惹起セリ。コソニヨリテ、「ツベルクリン」型過敏症ナルモノハ抗原抗體反應ニシテ、抗體形成ニハ結核組織ガ參與スル所大ナリトセリ。卵白ガ「ツベルクリン」ト比較シテ反應ノ輕度ナルハ此場合ノ抗原性、即チ結核組織結合スル力ガ「ツベルクリン」程特異ナラザルガ爲メナリ。而シテ結核免疫ノ研究ニ當リテハ結核病竈其モノ、免疫生成上ノ影響ヲ大イニ顧慮セザル可カラズト云ベリ。(岡抄)

27、抗原ニ對スル呼吸器官ノ透過性ニ就テ

P. F. Clark, W. S. Middleton & O. M. Wilson(Wisconsin)

結核菌體成分ノ吸入ハ呼吸器官ヨリ、抗原トシテ之ヲ吸收シ、又ノニ對ス

抄録

ル過敏症ヲ生成ストノ著者等ノ考ヘラ證明セムトセル症例及ビ實驗報告ナリ。Sharpless 遠心裝置ヲ以テ「ツベルクリン」清淨中起ル噴霧ヲ吸入セルメ一學生ガ喘息様發作ヲ起セリ。此學生ハ「ツベルクリン」反應陰性ナリ、追試スルニ毎回發作ヲ起セリ。此事實ハ「ツベルクリン」ガ抗原トシテ氣道ヨリ吸收セラル、爲メナリト考ヘ、天竺鼠ヲ用ヒ、吸入セシメテ過敏性ヲ與フル事ヲ得、且ツ此過敏性ハ被動的ニ他ノ處置セザル動物ニ移入スル事ヲ得。

(岡抄)

28、ロング氏合培地ニ鳥型結核菌ヲ培養

A. G. Renfrew, S. L. Bass & T. B. Johnson(New Haven)

前報告(Am. Rev. Tb, 1928, Vol. 18, p. 508)ノ續キニシテ鳥型ニ就テ試ミタルモハナリ。一六週間行ヘリ。培地ノ酸度ハ二週間ニシテ最高酸性トナリ、其後再び復舊シテ「アルカリ」性ニ近ヅク。含水炭素ノ變化(Schafer-Hartmann氏銅還元微量定量法)ハ人型菌ト反對ノ現象ヲ呈ス。

(岡抄)

29、ロング氏合培地ニ「チモチー」菌ヲ培養セル場合ニ起ル化學的變化ニ就テ

S. L. Bass & T. B. Johnson(New Haven)

前題ノ續キニシテ本菌ニ於テハ鳥型菌ト大體同様ニシテ人型菌ト著シク異レリ。

(岡抄)

30、肺結核ニ因テ死ニセル屍體五十例ノ剖

檢報告

A. O. Saunders(Palo Alto)

肺結核が死因ト認メラル、モノ、ミノ報告ニシテ肉眼的所見ノミニシテ検鏡ハ全ク行ハズ。總テ男性ニシテ年齢二六乃至六二。肋膜癒著ハ兩側四一、片側九。氣胸。人工的十九。自然九。肺結核ニ空洞全ク存在セザルモノ二例。肺門部淋巴腺ニ乾酪變性著明ナルモノ一例。腎結核六例。腸間膜腺結核六例。腸結核潰瘍一九例。肝門瘻孔五例ナリ。

(岡抄)

結核專門外雜誌

31、健康人ニ於ケル胸腔液「リバーゼ」量ニ就テ

吉本勝

(十全會雑誌第三十四卷第十號)

著者本問題ニ就テ某歩兵聯隊所屬ノ健康兵ヨリ胸腔液ヲ得タルモノニシテ種種ナル事情ノタメ教練終了後約二時間ノ靜養後午後四時乃至六時頃座位ニ於テ第九乃至第十一肋間ヲ穿刺採血シ尙ホ同時ニ正中靜脈ヨリ採血シ凝固後析出セル血清ヲ採取シ、又胸腔穿刺ニヨリ胸腔液全ク陰性ノ者ノ血清ヲ採取シ、更ニ滲出性肋膜炎患者ノ早朝空腹時滲出液及ビ血液ヲ同様採取シ是等ノ「リバーゼ」量ヲ測定セリ、「リバーゼ」ノ量測定ハ Rona-Michaelis ノ法ニヨリ「トリプチリン」(カール、ペウム製)ノ飽和溶液五〇粨ニ反應調節液トシテ三分ノ一定規第一及び第二磷酸曹達液一對八ノ割合ニ混合セルモノ二粨ヲ加ヘ良ク混和シ攝氏十八度ニ保チ之レニ血清又ハ胸腔液一粨ヲ加ヘ良ク混和シテ

「スタラグモメーテル」ヲ用ヒテ滴數ヲ計ヘ、後直ニ攝氏三十八度ノ水浴中ニ置キ後チ取り出シテ再び攝氏十八度ニ冷却シ同數滴數ヲ計ヘ「トリプチリン」

32、結核ト妊娠

Hutchinson, Dorothy W.

飽和溶液ノ分解度ヲ知リ、第一次反應速度恒式 $K = \frac{1}{t} \log \frac{a}{a-x}$ ニヨリ反應速度恒數ヲ以テ「リバーゼ」量ヲ表セリ。(一) 健康人ニ就テ。(二) 滲出性肋膜炎患者ニ就テ。(三) 肺結核患者ニ就テ、検査實驗セル結果左ノ如キ總括並ニ結論ヲナセリ。

健康人中胸腔液ヲ證セルモノト證セザルモノトノ血清「リバーゼ」量ヲ比較觀察スルニ殆ンド相等シ、健康人血清「リバーゼ」量ハ個人的差違著シク其胸腔液「リバーゼ」量ハ血清ノ夫レノ約四分一弱ニ當リ其ノ平均比率ハ〇・二七ナリ、更ニ肋膜炎患者ニ就テ觀ルニ其血清「リバーゼ」量ハ健康人血清ノ夫レヨリ稍々低キモ滲出液「リバーゼ」量ハ血清ノ夫レノ約半量ナリト云ヒ、辻ハ滲出液「リバーゼ」量ハ血清ノ夫レニ對スル比率ハ〇・五八ニシテ大約血清「リバーゼ」ノ二分ノ一強ニ當ルト云ヘルガ余ノ成績モ略々兩氏ニ一致セル結果ヲ得タリ、即チ健康人胸腔液「リバーゼ」量ハ肋膜滲出液「リバーゼ」量ニ比シ著シキ低キモノ多ク、其ノ平均値ヲ比較スレバ健康人胸腔液「リバーゼ」量ハ著シク低ク滲出液「リバーゼ」量ノ約半量ナリ、然ルニ健康人タルト肋膜炎患者タルトヲ問ハズ胸腔液「リバーゼ」量ハ血清ノ夫レト相比例シ血清「リバーゼ」量大ナルモノハ胸腔液ノ夫レモ大ニシテ血清「リバーゼ」量ノ大小ト胸腔液ノ夫トハ一般ニ相平行スルヲ以テ觀レバ Hess 婦ニ辻等ノ云ヘル如ク胸腔液「リバーゼ」ハ血清「リバーゼ」ニ由來スルモノナルベク、健康人ト肋膜炎患者ト其胸腔液ノ「リバーゼ」量ニ著シキ差異アルハ局所漿膜ノ炎症轉機ノ有無ニ因ルガタメナルベシ。

(加藤抄)

(Zentralblatt für die gesamte Tuberkuloseforschung,

B. 31, H. 7/8, 1929)

Noopening 療養所ニ於テ一九一二年以來收容セル肺結核患者ノ死亡率ヲ觀察
ヘルニ男子ハ五四・七%，經產婦六一・七%，未妊娠五三・八%，妊娠中ニ罹患
セルモノハ七一・三%，出產後一年以上ヲ經過シテ妊娠セルモノハ五三・四%ナ
リ。

(春木抄)

33、皮膚結核ノ食餌療法

Sigwald Bommer

(Münchener medizinische Wochenschrift, Nr. 17, 1929)

ゲルソン、ザウエルブルツフ、ヘルマンスドルフヨル食餌ヲ以テ一五〇名ノ
皮膚結核患者ヲ治療セリ、他ノ種々ナル治療法ノ成功セザル例ニ於テ全身日
光浴、及び光線療法ト共ニ此食餌療法ヲ施行シ一部ニ於テハ少量ノ光量ヲ以

テ局所放射ヲ行ヘリ、治療成績ハ非常ニ良好ニテ結核性潰瘍ハ三乃至四週ヨ

リ乾燥シ始メ、厚キ痂皮ヲ生ジ更ニ三乃至六週後ヨリ脱落シ平滑ナル目立タ
ナイ瘢痕トナル、尋常性狼瘡ノ場合ニハ食餌療法後二乃至三週ニシテ周圍ノ
腫脹減シ赤紫色モ消退ス。治癒セル場合ニ於テハ其外貌上ノ美ヲ保ツ點ニ於
テモ成功セリ、退院後家庭ニ於テ同療法ヲ行ヒテ持続的治癒ヲナスカ否カニ
就キテハ未ダ經驗ヲ有セズ。

(春木抄)

34、喉頭結核ト免疫生物學

Elmer von Törököyi

(Zentralblatt für die gesamte Tuberkuloseforschung, B. 31, H. 9/10.)

喉頭結核ハ全身ノ結核性疾患ト共ニ觀察シテ治療ス可キモノナリ、著者ハ喉

—A l'acide osmique au 2%, il y a noircissement, mais non solution.

2° A l'éther employé pour l'inclusion dans la celloïdine, il y a légère solution.

3° Par le mélange aux divers produits employés pour l'inclusion dans la paraffine usuelle et les divers traitements des coupes, c'est-à-dire, le chloroforme, le xylol, la benzine, la solution est bonne dans l'ordre même de citation de ces produits.

Pour les dissolvants de paraffine : carbone tétrachloride, bisulphite de carbone, trichloréthylène, solution bonne ; également avec l'essence de térébenthine, la ligroïne, le toluol, solution bonne ; — Avec le benzol, l'éther de pétrole, solution faible ; — avec l'acide acétique glacial, pas de solution.

4° A la gélatine au 12% (eau gélatinée), aucune solution.

5° Comme il est dit ci-dessus, il y a bonne solution par le xylol employé pour l'éclaircissement des coupes. . . . De plus l'huile de cèdre, l'huile d'origanum, donnent une légère solution. . . . L'essence de bergamote, l'essence de lavande, faible solution. . . . La glycérine, l'acétate de potassium (à saturation dans l'eau), la créosote universellement employés n'ont pas d'effet dissolvant.

6° Pour les produits employés comme conservateurs, l'acétate de potassium (à saturation dans l'eau) avec la glycérine, pas de solution, comme cela est admis. — Avec le baume du Canada, le baume du Canada neutre, pas de solution.— Avec le baume du Canada dissous dans le xylol, ainsi qu'avec l'huile de cèdre, il y a solution.

V.

En mélangeant à l'émulsion des bacilles tuberculeux et à l'émulsion streptothrix acido-résistante les diverses substances chimiques employées dans l'expérimentation histologique, ceux de la fixation, de l'inclusion, de l'éclaircissement, ou les conservateurs, également en traitant le mélange continu à tour de rôle de ces produits par la méthode d'inclusion dans la celloïdine et d'inclusion dans la paraffine, ensuite par le procédé de coloration Ziehl-Gabbet, on constate le degré d'affaiblissement d'acido-résistance de l'émulsion : en effet, tous les corps tuberculeux de l'émulsion servant à l'expérimentation ne perdent pas complètement l'acido-résistance ; de plus, les corps tuberculeux qui montrent peu d'acido-résistance, bien que ne disparaissant pas, diminuent, comparés à ceux qui ne servent pas à l'expérimentation ; les corps tuberculeux à forte acido-résistance diminuent quant à la quantité et également jusqu'à un

certain point quant à la qualité. D'ailleurs voici les résultats de chaque produit :

1° Mélange de chaque produit à l'émulsion de culture pure de bacilles tuberculeux.

a) Dans la fixation par le formal et le liquide d'Orth, coloration mauvaise,— Par l'alcool, coloration bonne ; par l'acétone, la solution de sublimé, coloration aussi meilleure que par l'alcool,— Par l'acide picrique (saturé dans l'eau), le fond jaunit, mais la coloration est bonne.— Par l'acide chromique de potasse, coloration bonne mais en décroissance.— Par l'huile de cèdre, le liquide de Müller, coloration assez mauvaise.— L'acide osmique, le liquide d'Altmann, le liquide de Flemming ne conviennent pas au procédé de coloration Ziehl-Gabbert.

b) Par l'éther à inclusion dans la celloïdine, coloration un peu mauvaise ; les bacilles paraissent un peu maigris.

c) Par l'inclusion dans la paraffine, et par le chloroforme, le xylol, et la benzine employés pour le traitement des coupes, la coloration est mauvaise dans l'ordre même de citation.

Pour les dissolvants de paraffine, avec le benzol, coloration moins mauvaise, avec le carbone tetrachloride, coloration relativement moins mauvaise.

2° Mélange de chaque produit à l'émulsion streptothrix acido-résistante :

a) Dans la fixation par le formol, le liquide d'Orth, le bichromate de potasse au 3%, coloration plus mauvaise ; par l'acétone, coloration parfaite, mieux que par l'alcool ;— par la solution de sublimé, coloration très nette, même pour les parties manquant d'acido-résistance avec résultats auxiliaires de sensibilisation.—

Par l'acide picrique (à saturation dans l'eau), il y a aussi coloration. Le liquide de Müller, le liquide de Zenker, coloration à peu près moyenne.

L'acide osmique dilué, le liquide d'Altmann, le liquide de Flemming ne conviennent pas à la coloration.

b) L'éther employé à inclusion dans la celloïdine, influence relativement faible.

c) Pour l'inclusion de paraffine, et par les produits employés pour le traitement des coupes, c'est-à-dire, le chloroforme, le xylol, la benzine, coloration mauvaise dans l'ordre de citation ; pour le benzol, le carbone tetrachloride, influence relativement moins mauvaise.

3° D'après le procédé d'inclusion dans la celloïdine et la paraffine, par le mélange continu et à tour de rôle de ces substances chimiques, l'émulsion des bacilles tuberculeux subit les effets suivants :

- a) Avec le formol par la fixation, la coloration des corps tuberculeux devient moins nette.
- b) Par l'alcool, diminution sensible d'acido-résistance.
- c) Par l'éther inclus dans la celloïdine, les corps tuberculeux maigrissent passablement.
- d) Par le chloroforme inclus dans la paraffine, l'acido-résistance diminue ; les corps tuberculeux paraissent maigrir.
—Par le xylol, diminution notable d'acido-résistance, corps tuberculeux rapetissés . . . Cependant dans ces deux cas, les granulations sont à couleur foncée et il y a des parties amorphes comme des corps tuberculeux démolis.
- e) Dans les cas des diverses substances chimiques employées comme dissolvants de paraffine, donnent mal la coloration ; le chloroforme, le xylol, la benzine, l'essence de téribenthine, le benzol, dans l'ordre de citation ; s'y ajoutent : la ligroïne, l'éther de pétrole, le trichloreéthylène, le bisulphite de carbone, le carbone tetrachloride, et ensuite l'huile de cèdre.
- f) Par le procédé de Gram, tous donnent une bonne coloration pour les bacilles traités. . . Les corps tuberculeux qui conservent l'acido-résistance sont évidemment positifs ; ceux qui ont perdu l'acido-résistance, mais conservent la forme de bacilles, également positifs ; la partie ayant perdu l'acido-résistance et la forme de bacilles devenue amorphe, donne une coloration au négatif.

VI.

Dans le cas d'émulsion streptothrix acido-résistante d'après la méthode de coloration Ziehl-Gabbert :

- a) Par le formol, les frottis en entier, prennent un ton violet ; les corps tuberculeux sont un peu indistincts.
- b) Par l'alcool, les corps tuberculeux sont colorés d'un rose clair.
- c) Par l'éther, inclus dans la celloïdine, les corps tuberculeux voient diminuer un peu leur acido-résistance ; de plus ils sont accompagnés de granulations foncées et de parties amorphes ayant perdu l'acido-résistance.
- d) Par l'éther, le chloroforme paraffinés, quelques bacilles montrent de l'acido-résistance, mais cette acido-résistance diminue sensiblement ; de plus, leur nombre diminue d'une manière notable ; le reste consiste en des granulations et parties amorphes ayant perdu l'acido-résistance.
- e) Suivant le procédé de Gram, les corps tuberculeux positifs et les granula-

tions, les corps tuberculeux faiblement positifs et les fragments sont colorés au positif, cependant dans cet ordre-ci : le xylol, le chloroforme, l'éther, la coloration n'est pas bonne.

VII. Conclusions.

Voici l'effet produit sur l'acido-résistance de l'émulsion streptothrix acido-résistante, celle de l'émulsion des bacilles tuberculeux et celle de la cire des bacilles par les substances chimiques employées dans les expériences de technique histologique :

1° Le formol universellement employé pour la fixation rend la coloration acido-résistante grandement mauvaise.—L'acétone froid, le sublimé l'alcool froid, gâte peu la coloration.

2° L'éther employé par inclusion dans la celloïdine, le chloroforme chaud, le xylol chaud employés par inclusion dans la paraffine, gâtent beaucoup la coloration acido-résistante.

3° Le xylol, parmi les produits éclaiçissants, gâte la coloration comme il est dit ci-dessus ; la créosote, non.

4° Pour les produits conservants, la coloration subsiste par la glycérine ; par le baume dissous dans le xylol, coloration détruite ; également par l'huile de cèdre.

5° Les bacilles tuberculeux et les streptothrix acido-résistants ayant perdu l'acido-résistance par traitement technique ne se colorent plus à la coloration acido-résistante, mais conservent la forme de bacilles et se colorent au positif Gram.

VIII. Réflexions.

1° Pour examiner les tissus des bacilles à faible acido-résistance, ou bien pour calculer le degré d'acido-résistance des bacilles ayant cette propriété, dans les tissus, les préparations de frottis sont de première importance.

2° Il est important aussi, pour la coloration des coupes d'acido-résistance de faire immédiatement des coupes glacées avec des matériaux fraîchement choisis. Cependant, dans les cas où, techniquement, il y a nécessité de fixation en temps court, ou bien de stérilisation des bacilles acido-résistants pathogènes, l'acétone froid, la solution de sublimé et aussi l'alcool froid peuvent donner la fixation.

3° Par la gélatine, les matières adipo-cireuses à acido-résistance ne sont pas dissoutes.... L'inclusion dans la gélatine pour constater les bacilles acido-résistants dans les tissus, est, croit-on. à conseiller.

4° Pour la coloration des bacilles acido-resistants dans les tissus et les coupes, simplement même pour la preuve des corps tuberculeux, la coloration acido-resistante ne suffit pas ; il faut aussi employer le procédé de coloration de Gram.

On the Immunity against the Intestinal Infection of Human Type Tubercle Bacilli acquired by the Stomachal Application of B. C. G.

By

Kiyoshi Satake, M. D. and Ichiro Umetani, M. D.

(From the Clinical Department for Pulmonary Tuberculosis of the Osaka Medical College,
Osaka. Head of the Department. Prof. Dr. Arao Imamura.)

The authors carried out a series of experiments as regards any possible acquired immunity by the stomachal injection of Calmette-Guérin bacillus.

The first, preliminary experiment included a number of guinea pigs, which provide the evidence of infection by the intrastomachal injection of tubercle bacilli applied in this experiment. 1.0 mgm of a virulent human type strain, suspended in 0.5 cc physiological salt solution, was injected into the filled stomach of animals through the abdominal wall by means of a canule of small caliber. The manipulation itself was without any injurious effect on the animals. After the lapse of 1, 2, 3, 4, 5, 7 and 10 weeks respectively, infection was found to be positive by Römer's skin test as well as by autopsy. The lesions were most pronounced in the mesenteric lymph glands nearest to the duodenum — the duodenal lymph glands, as the authors call them.

In the second experiment a number of young guinea pigs were vaccinated intrastomachally with 1.0-5.0 mgm of B.C.G. A month later, after being tested with Römer's reaction, they obtained 1.0, 0.1, and 0.01, mgm of the virulent human type strain in the stomach in the manner as described above. 3, 5, 7 and more weeks thereafter these animals were killed and the findings were compared with those of controls.

The results obtained have lead the authors to the following conclusions :

- 1) After a period of a month following the stomachal injection of B.C.G. in doses of 1.0 and 5.0 mgm, the outcome of the Römer's test is still inconstant. Even

those with an apparent reaction must be regarded as feebly positive.

2) In the first experiment, it was found, that the intrastomachal vaccination with 1.0 and 5.0 mgm of B. C. G. may, after a certain period, render all the treated animals immune against the intestinal infection with 1.0 mgm human type bacilli.

3) In the second experiment, the animals, which had been vaccinated stomachally with 1.0 mgm of B. C. G., expressed also a certain degree of immunity against the intestinal infection with 0.1 mgm human type bacilli. In this case, however, the result obtained was not so distinct as in the first experiment, as the lesions were very slight in degree due to the too small amount of the bacilli introduced.

4) In the third experiment, where the infecting dose of human type bacilli was much reduced, the autopsy findings were so insignificant, that it was almost impossible to distinguish the treated group from the other. The only indication of acquired immunity in the treated animals, however, was found in the duodenal lymph glands, when these were compared with those of untreated controls.
